

7月から運用開始!

茨城県ドクターヘリ



県が初めて単独運行させる「ドクターヘリ」の運行訓練が、5月21日、市消防本部と水戸済生会総合病院により実施されました。

ドクターヘリとは、救急医療ができる医師と看護師を乗せ、2分以内で発進可能で、必要な機器や医薬品を搭載しているヘリコプターのことです。

7月1日からの運行開始に向け、県内26の各消防本部で4月19日より順次訓練が行われていて、常陸大宮市の訓練実施は11番目となります。訓練は、おおみや消防広場と緒川運動公園入り口で、それぞれ、けが人と急病人の救助・救急の要請があったと想定して行われました。

基地となる病院は、水戸医療センター（茨城町）と水戸済生会総合病院（水戸市）の2カ所。要請があったから、30分以内で県内全域をカバーすることができず。迅速な搬送はもちろん、医師と看護師が同乗するので、いち早く初期治療を開始することが出来るため、患者の救命率の向上と後遺症の軽減が期待されています。



▲プライバシー保護のため患者をシートで隠し、ヘリに移し替えを行う



▲ランデブーポイント（ヘリと救急車が合流する場所）でのヘリと救急車



▲医療機器を搭載したヘリ内部での処置の様子



▲患者を救急車から担架へ移す